

# 石井としひろの「館山市政かわら版」

敏 宏

館山市議会議員

## 能登半島地震から防災を考える



### 1、能登半島地震から館山を考える

#### ①地震列島

新年早々、能登半島で大きな地震と津波がありました。犠牲となられた方々におくやみを申し上げるとともに、被災されたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。

大災害が起きる度に、予想外の地域であり、世界屈指の地震大国である日本では、明日にでも地震と津波に襲われるリスクがあります。特に、南海トラフと首都直下型地震はいつ来ても不思議ではありません。南海トラフは特に津波、首都直下型は主に地震の被害が大きくなります。首都直下型は神奈川か東京か、はたまた館山か、全くわからず、震源をピンポイントで予測できません。

#### ②半島と高齢化

能登半島では「半島」ゆえに、地震で道が寸断され、車での渋滞が起こり、負傷者の搬送や復旧作業に支障が生じていました。

これは房総半島の最南端の館山市でも、同様の事態が想定されます。100年前の関東大震災では、復旧にあたり、海路を使って船がたくさん来ている写真があります。道路・海路・ヘリの着陸場所の確認も、防災計画に入れるべきでしょう。

また、能登半島の高齢化は50%の地域が多く、病気などの災害関連死のリスクも高い状況です。安房では、南房総市の高齢化率は約50%、館山市は約40%です。高齢化は進むので2040年には館山市も50%になります。つまり、館山市も地震に見舞われると、能登半島と類似の事態になることが想定されます。

#### ③老朽化施設は倒壊する

1981年（昭和56）年5月31日までの建築確認において適用されていた基準のこと「旧耐震基準」と言いますが、旧耐震基準の建物の倒壊可能性が高いことは能登半島の地震でも、過去の地震でも証明されています。

館山市庁舎は耐震化されているとはいえ、老朽化しており、10年以内には新築し移転したいところです。現在、市では移転地など具体的な検討を進めています。

ところで、2013年ですが、私は宮城県の大町市に震災についての視察をしてきたことがあります。印象的だったのは、庁舎建替えが遅れているうちに東日本大震災に見舞われ、倒壊はしなかったものの庁舎はボロボロになって、使用不能になっていました。

ですから、プレハブの仮庁舎での視察になったわけですが、当然ながら復旧の遅れにつながったので、館山市では早めに建替えを完了して欲しいと思います。

### 2、福島を学ぶ

#### ①福島県浪江町の請戸小学校を視察



昨年の10月下旬ですが、津波により廃校になっている、福島県浪江町の請戸小学校を視察してきました。この小学校は児童と教職員を含む全員が、津波から逃げて避難できたことから記念館になっています。

津波で1階が破壊され、2階で辛うじて助かった高さです。学校近隣の住宅地は津波で無くなってしまいました。

#### ②敢えてマニュアル通りにやらない

先生と小学生たちは、学校へ津波避難を呼びかけに来てくれた地域の人々の声を素直に受け止めて、地震の揺れから8分後に速やかに避難を開始しました。迎えに来た保護者もいましたが、子どもを渡して帰すことをせず、全員が山の方向に逃げることにしました。

防災マニュアルの避難ルートと敢えて違うコースを選んだのですが、速く逃げるために「より直線」を選択したわけですが、一方、車での避難を選んだ近隣住民は、渋滞により多くが犠牲になりました。

#### ③まず動いて、考えて、また動く

行き当たりばったりの面もありまして、山のふもとに着いても、山をどこから登れば良いのか、先生たちは知らなかったのですが、知っていると言う児童を信頼しました。誰もわからなかったら、津波に飲まれて全滅していたでしょう。

そして、山を無事に越えて、安全な場所まで到達したところ、たまたま通りかかった大型トラックに救出され、避難所に搬送されました。寒い日だったのですが、運も

味方しました。結果として、請戸小学校は全員が助かっています。

#### ④これこそが教育の成果ではないのか

この小学校は、自らの頭で考える一方、人を信頼して速やかに行動しています。リスクを取りながらも、常にベターな選択を心がけて速やかに行動しています。

災害対応として見習うべきであるとともに、これこそが「教育」の成果ではないでしょうか。単に避難マニュアルを鵜呑みにするのではなく、自分の頭で考えて、速やかに行動する勇気は見習うべきものです。

#### ⑤平時と有事の発想は逆

平時では行政はルール通りにやるのが当たり前です。しかし、有事では、ルールが往々にして逆になります。ルールよりも「現場判断」の方が重要です。

また、平時は公平性が大事ですが、有事では「助けられる人から助ける」ことが重要です。2019年の房総半島台風で、千葉県は屋根へのブルーシートがけを途中でやめてしまいました。その理由は、「有料でかけた人と、ボランティアでかけてもらう人が出てしまうのは不公平」というものでした。残念ながら平和ボケです。こういう有事は、公平性を犠牲にして、救える人から救わなくてはならないのです。

災害対応の先進地である岡山県総社市の片岡市長も、「有事にはルールを破れ」「有事に公平性では誰も救えない」と述べている通りです。

### 3、市議会の災害対応

#### ①全国で議員たちの災害対応は批判されている

全国の事例を見ると、災害対応において、議員はボロクソに批判されています。それは職員の足を引っ張ることです。

災害後に議員は、個々の支援者の家をお見舞いに回ります。そうすると個々に色々な要望を受けます。切実な願いなので、議員も必死にその要望を通そうとします。

しかし、職員も膨大な作業にアップアップ。議員のクレーマーとも言うべき圧力に疲弊します。結果として、全体の復旧が遅れるという事態が、全国で当たり前になり返されています。

#### ②房総半島台風の議会災害対応は実は先進的

一方、房総半島台風の時の館山市議会は敢えて、そうならないように工夫しました。東日本大震災で多くの議会が失敗していることを学んでいたからです。

被災の初期は、来れる議員は毎日、議会に集まって、要望や質問を集約して、議長が行政に要望を持ち込む形にしました。個々バラバラに行くよりも、効率化され職員の負担が減ります。

また、議員同士で情報交換をすることにより、職員に持ち込まずに疑問を解決できたことも多々ありました。

一方、例外的に個々で要望をすることを禁止まではしていないので、柔軟に活動できたと思います。

#### ③県内の防災対策に関心のある議員で情報共有



私は全国災害ボランティア議員連盟という、政党を問わない防災の勉強会に入っています。ボランティアという言葉が入っているのは、現場活動の観点を重視して、防災政策に活かしたいという意味でもあります。

その議員連盟のなかで千葉県の議員有志で集まり、勉強会をした時に、館山市議会の災害時の対応について、情報共有を行いました。他の議会には無かった先進的な対応として、評価を受けたと思います。

ポイントは行政の災害対策本部の会議に、議長がオブザーバーとして参加して意見が言えることが重要です。それがないと、議会による民意反映は難しくなります。

一方、行政の内部の会議なので、議員にも一定の守秘義務が課せられることにもなります。

#### <お知らせ>

「市政報告&意見交換会」を行います。  
**2月10日(土) 菜の花ホール 1F集会室**  
(図書館の近く。住所:館山市北条1735)  
**時間: 10:00~11:30頃**

入場無料・予約不要なので、どなたでも当日、お気軽にお越し下さい。入退室自由ですので、ご都合のつく時間だけでもいらして頂ければと思います。

\*ただ、会場は定員が50名になります。ご予約いただけましたら、席を確保しておきます。

石井 敏宏 略歴  
昭和47年2月 館山生まれ。  
館山二中、安房高、立教大学  
法学部卒業。平成23年4月に  
館山市議会議員に初当選。



<発行者> 石井としひろ

〒294-0038 館山市上真倉320-2  
TEL&FAX: 0470-23-7738  
携帯: 090-1557-5515  
メール ishiitoshihiro1@gmail.com  
ブログ <http://ameblo.jp/ishiitoshihiro/>